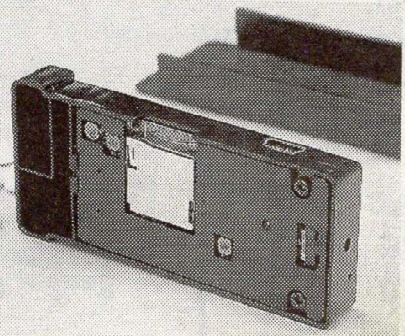


手にハイテク 盗撮倍増

スマホ普及 ■ 小型隠しカメラ安価に



昨年2400件、対策強化

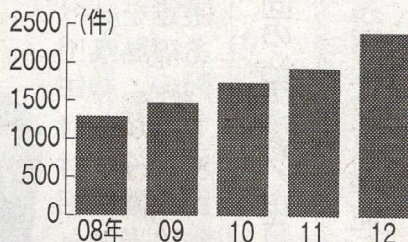
盗撮の摘発件数が5年間で倍増していることが警察庁のまとめでわかった。スマートフォン(スマホ)を使った手口が目立つ。誰もが高機能の撮影機器を持ち歩く時代。被害防止の取り組みも広がっている。

全国で昨年摘発された迷惑防止条例違反のうち、盗撮行為は2408件。2008年の1296件から年

数百件ずつ増えている。使われた機器はスマホが33%と最多で、カメラ付き携帯電話が30%で続いた。小型隠しカメラも11%ある。

全国盗撮犯罪防止ネットワーク(和歌山市)の平松直哉代表は「レンズや記憶媒体の進歩で盗撮が手軽な犯罪となつている」。スマホなどで写真を撮影すると通常はシャッター音が鳴るが

盗撮の摘発件数



各都道府県の迷惑防止条例違反から盗撮行為について警察庁が集計

隠れて見る興奮・スリル…やめられず

逮捕2度、更生へ振り返る

盗撮目的で女子トイレに侵入した建造物侵入の疑いで逮捕され、この夏、執行猶予付き有罪判決を受けた関東在住の20代男性が取材に応じた。同じ罪で2度の逮捕を経験している。なぜやめられなかったのか。インターネットのアダルトサイトで盗撮映像を目にしたのは高校生のころだ。興奮した。「隠れて見ている、いけないことをして

るドキドキ感があった」大学を卒業して会社勤めを始めたころ、公共施設の女子トイレの個室に忍び込み、戸板の隙間からハンデイカメラで隣の個室を隠し撮りした。「性的な興奮、背徳感、捕まるかもしれないというスリル。ジェットコースターのような、怖いけど、楽しい感覚があった」数度目の侵入で逮捕され、罰金刑を受けた。両親を失望させ、仕事も失った。二度とすまいと強く反省したはずが、数年後、ま

たネットで盗撮映像を見るようになっていた。この春、東京・秋葉原で防犯グッズ店にふと入った。数々の小型隠しカメラが並んでいた。「ミニトケース型ビデオカメラ」に手を伸ばした。一見、小粒の菓子ケースそのもの。「これならば見えないだろう。どんな感じで撮れるんだろう。そう思うと衝動に駆られてしまった。環境に影響される面が多かったと思う」再犯。そして逮捕。判決後、性犯罪に詳しいセラピストの元に通い、自ら向き合う作業を始めた。

(井上恵一朗)

ミニトケース型ビデオカメラ。本体右側面の小さな穴がレンズ